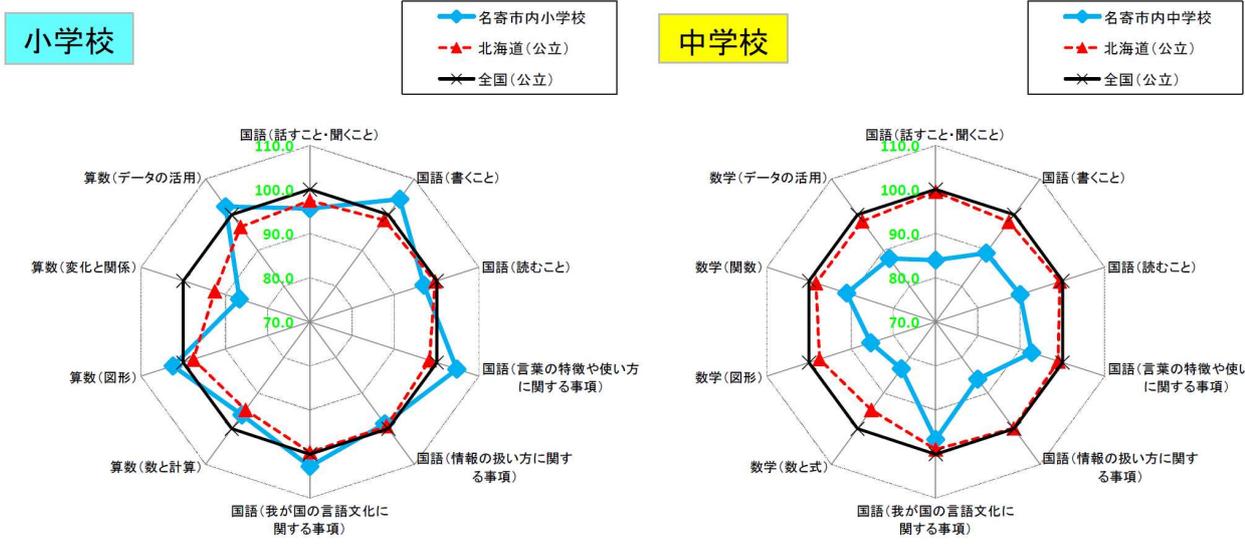


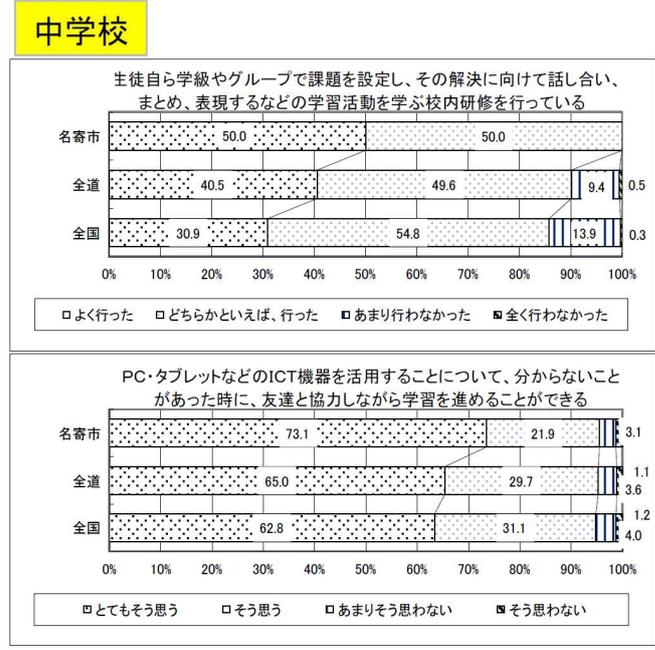
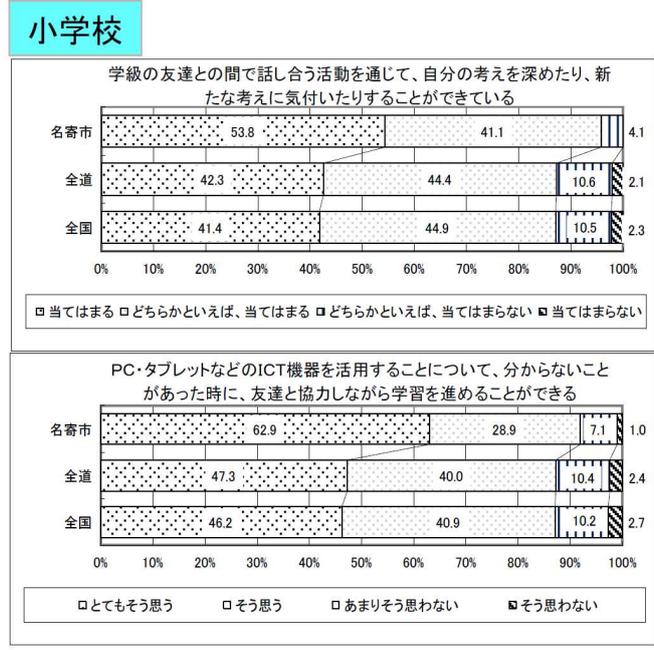
2 名寄市における児童生徒の状況 (※北海道教育委員会「令和6年度全国学力・学習状況調査 北海道版」結果報告書より)

(1) 教科の状況

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



(2) 児童生徒質問紙の状況



(3) 結果の要因分析

小学校

名寄市教育改善プロジェクト委員会を中心とした、市内小・中学校が一体となって進める授業改善と学年・学級経営の充実に向けた取組を推進したことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができるという回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の1領域2事項及び算数の2領域で平均正答率が、全国及び全道を上回った。

名寄市教育改善プロジェクト委員会を中心とした、1人1台端末を活用した指導方法や教材等の工夫・改善に向けた取組を推進したことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、友達と協力しながら学習を進めることができると回答した児童の割合が全道及び全国を上回った。

中学校

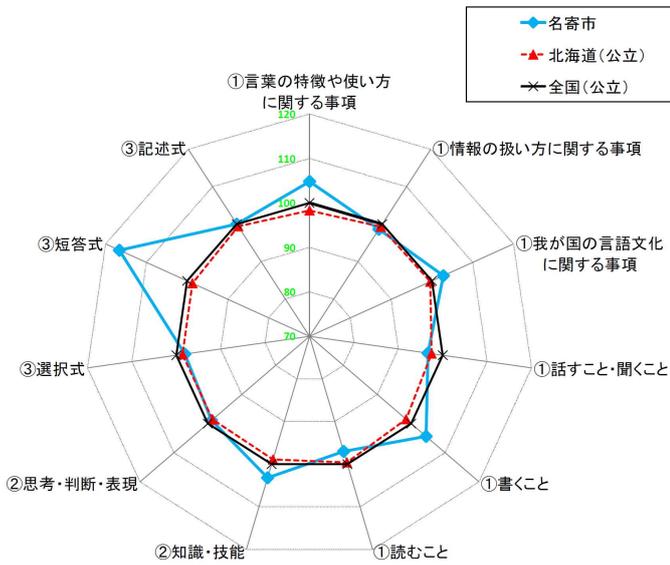
名寄市教育改善プロジェクト委員会を中心とした、市内小・中学校が一体となって進める授業改善と学年・学級経営の充実に向けた取組を推進したことにより、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っているという回答した学校の割合が全国及び全道を上回った。

名寄市教育改善プロジェクト委員会を中心とした、1人1台端末を活用した指導方法や教材等の工夫・改善に向けた取組を推進したことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、分からないことがあった時に、すぐ調べることができるという回答した生徒の割合が全国及び全道を上回った。

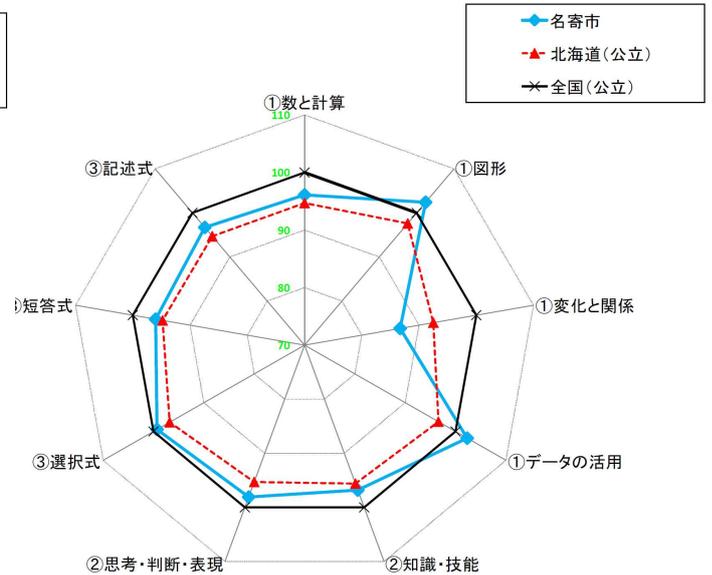
3 各教科の正答率の状況

(1) 教科に関する調査結果

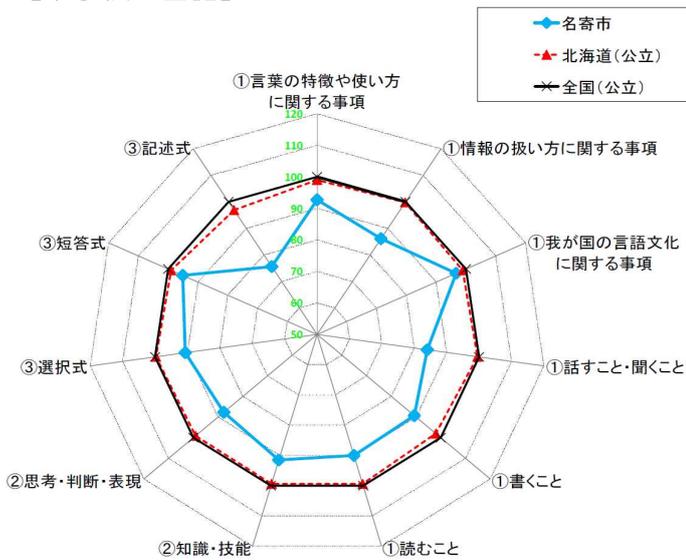
【小学校 国語】



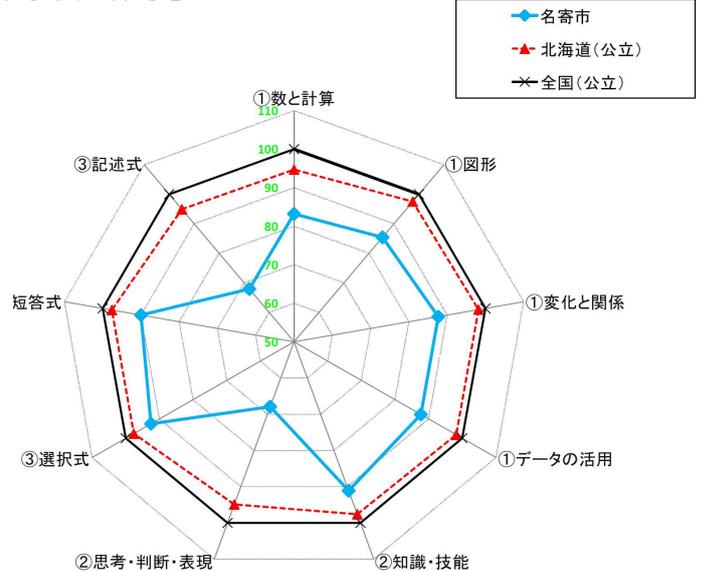
【小学校 算数】



【中学校 国語】

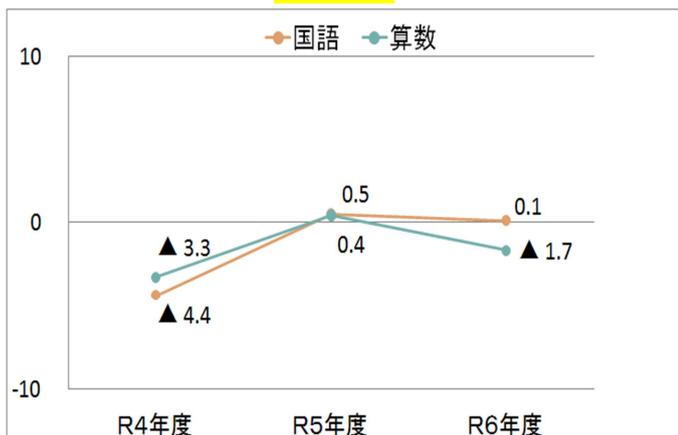


【中学校 数学】

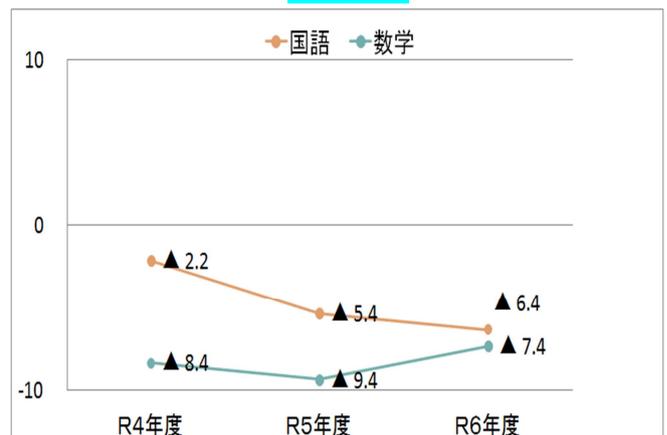


(2) 教科に関する調査結果経年変化 (※数値は全国平均正答率との差)

小学校

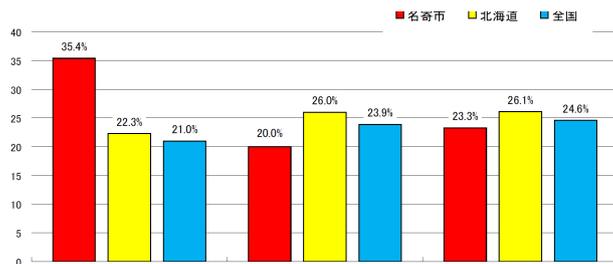
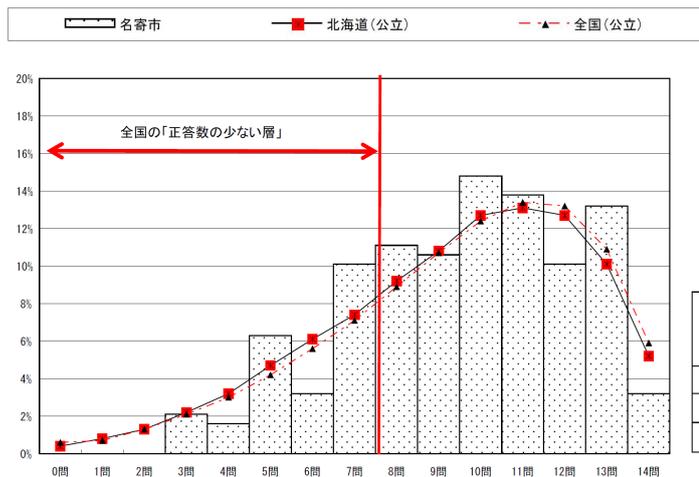


中学校



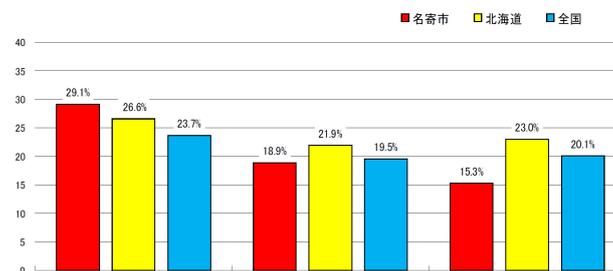
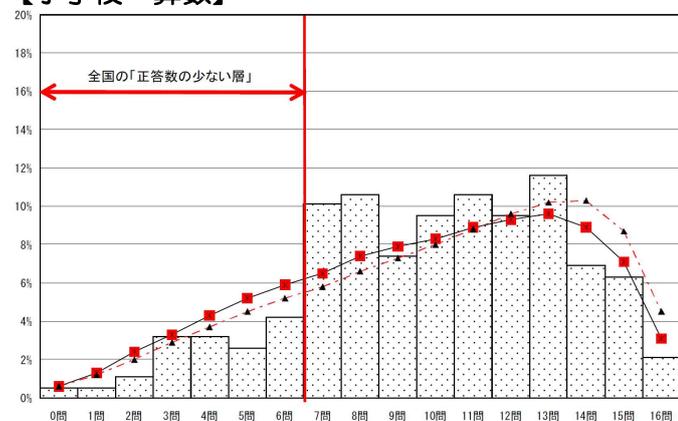
(3) 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童生徒の割合

【小学校 国語】



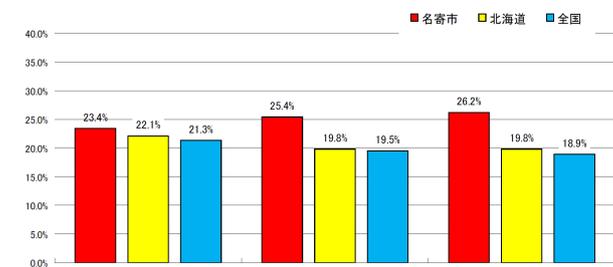
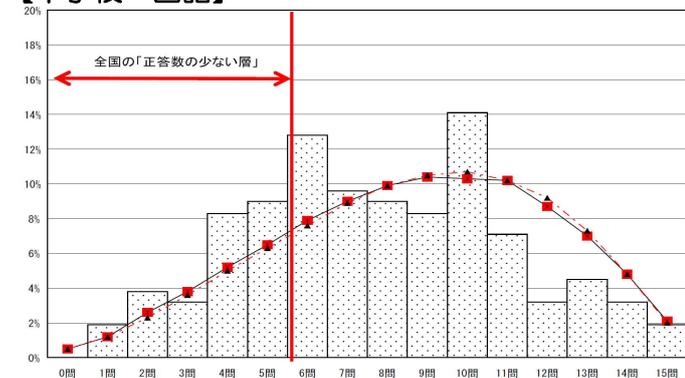
	R4			R5			R6		
	名寄市	全道	全国	名寄市	全道	全国	名寄市	全道	全国
割合	35.4 %	22.3 %	21.0 %	20.0 %	26.0 %	23.9 %	23.3 %	26.1 %	24.6 %
正答数	14問中6問以下			14問中7問以下			14問中7問以下		
全国との差	14.4ポイント		少ない	3.9ポイント		多い	1.3ポイント		少ない

【小学校 算数】



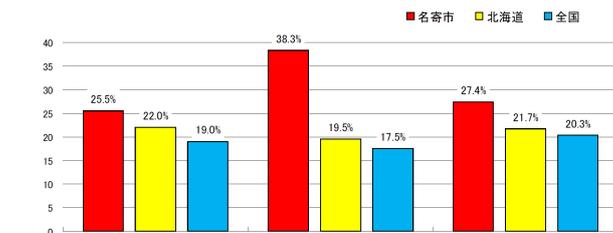
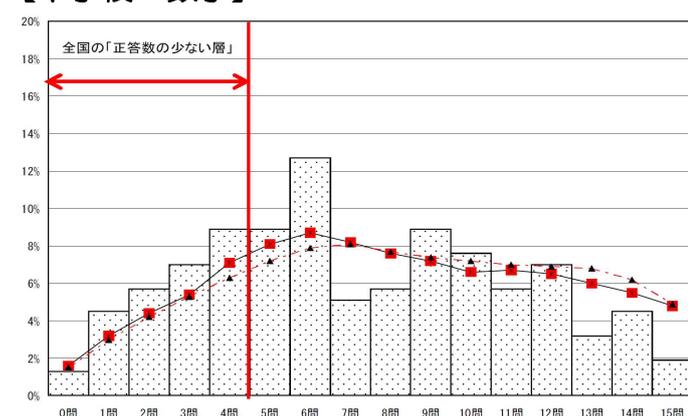
	R4			R5			R6		
	名寄市	全道	全国	名寄市	全道	全国	名寄市	全道	全国
割合	29.1 %	26.6 %	23.7 %	18.9 %	21.9 %	19.5 %	15.3 %	23.0 %	20.1 %
正答数	16問中7問以下			16問中6問以下			16問中6問以下		
全国との差	5.4ポイント		多い	0.6ポイント		少ない	4.8ポイント		少ない

【中学校 国語】



	R4			R5			R6		
	名寄市	全道	全国	名寄市	全道	全国	名寄市	全道	全国
割合	23.4 %	22.1 %	21.3 %	25.4 %	19.8 %	19.5 %	26.2 %	19.8 %	18.9 %
正答数	14問中7問以下			15問中7問以下			15問中5問以下		
全国との差	2.1ポイント		多い	5.9ポイント		多い	7.3ポイント		多い

【中学校 数学】



	R4			R5			R6		
	名寄市	全道	全国	名寄市	全道	全国	名寄市	全道	全国
割合	25.5 %	22.0 %	19.0 %	38.3 %	19.5 %	17.5 %	27.4 %	21.7 %	20.3 %
正答数	14問中3問以下			15問中3問以下			16問中4問以下		
全国との差	6.5ポイント		多い	20.8ポイント		多い	7.1ポイント		多い

4 質問紙調査の状況（児童生徒、学校）

※グラフの数値は、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した割合

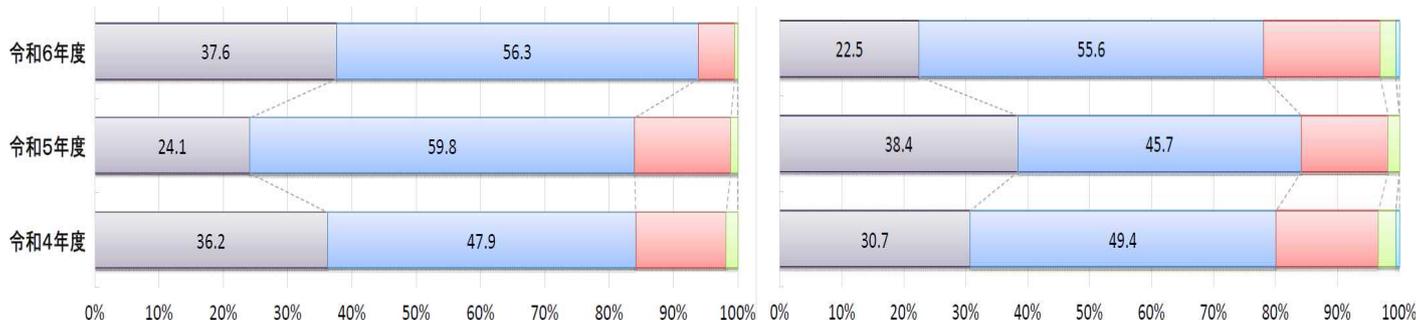
(1) 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況

① 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

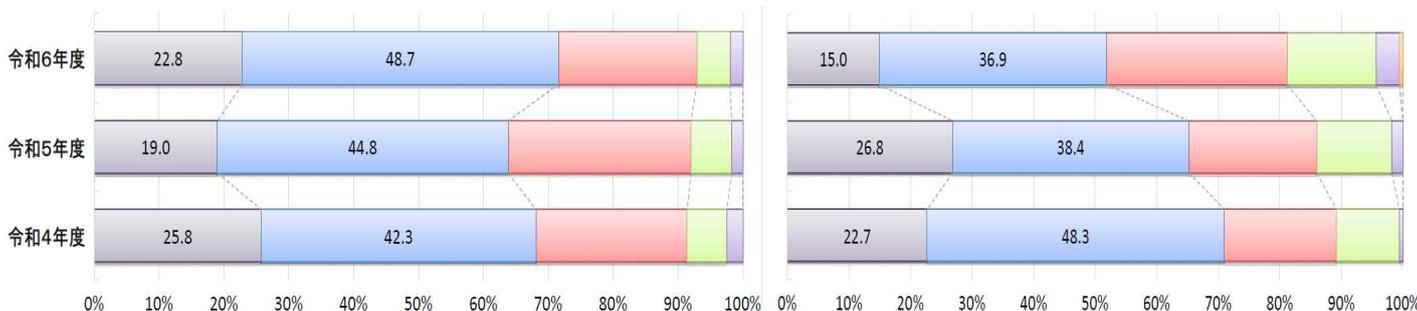
小学校

中学校

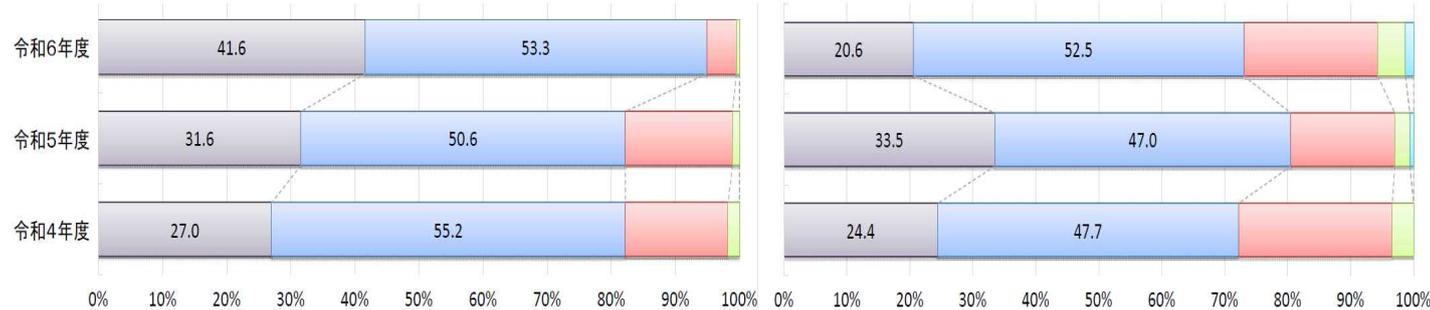
●5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。



●5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

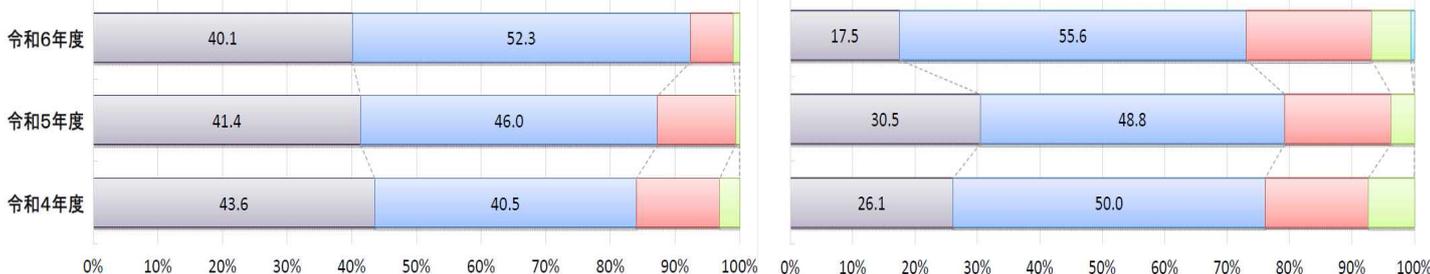


●5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。



② 個別最適な学び・協働的な学び

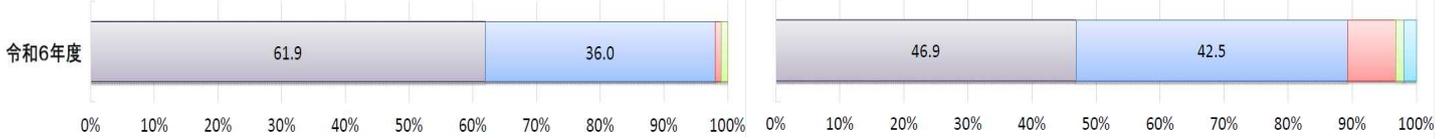
●5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。



小学校

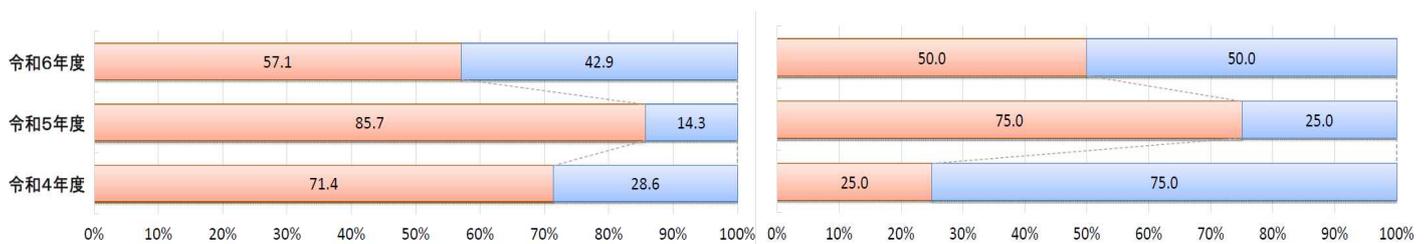
中学校

●授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。

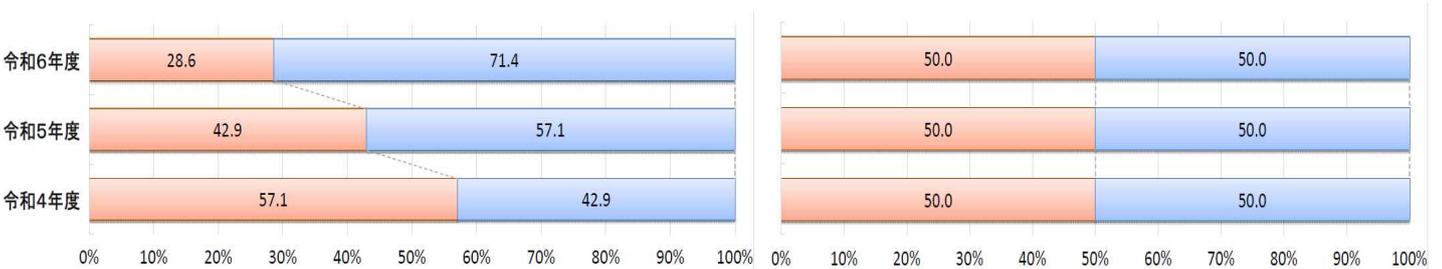


③ カリキュラム・マネジメント

●指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか。

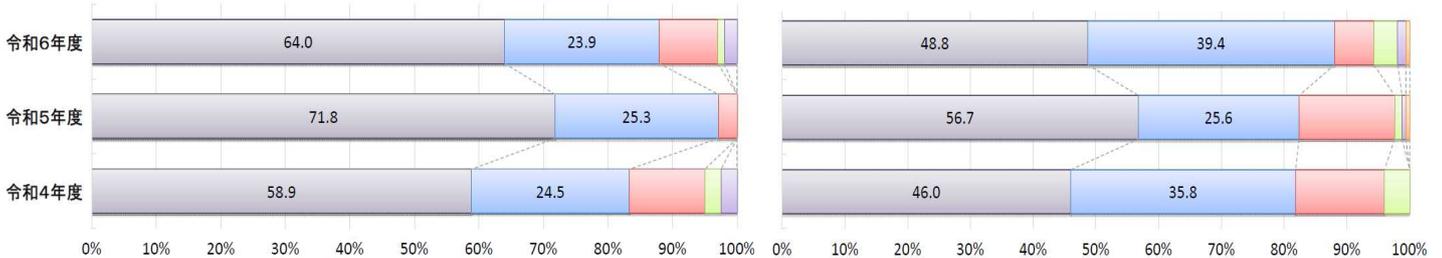


●児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。



(2) ICTの活用状況等

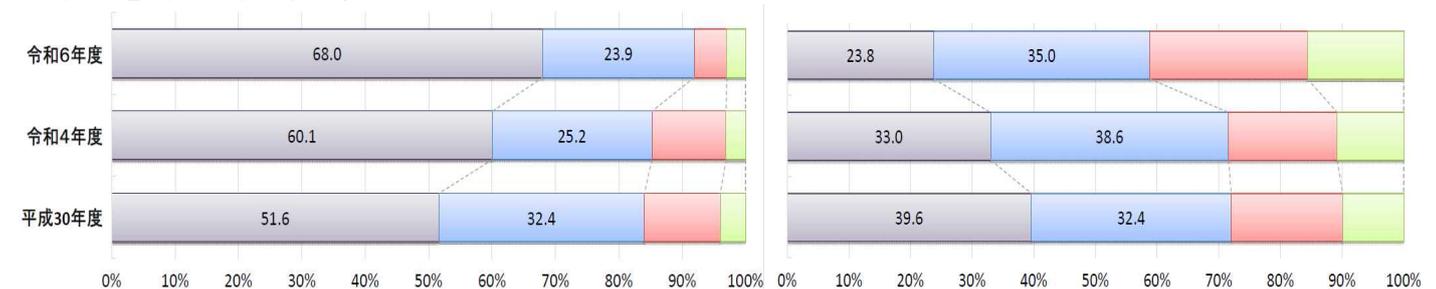
●5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。



(3) 学習に対する興味・関心や授業の理解度

① 理科に関する状況

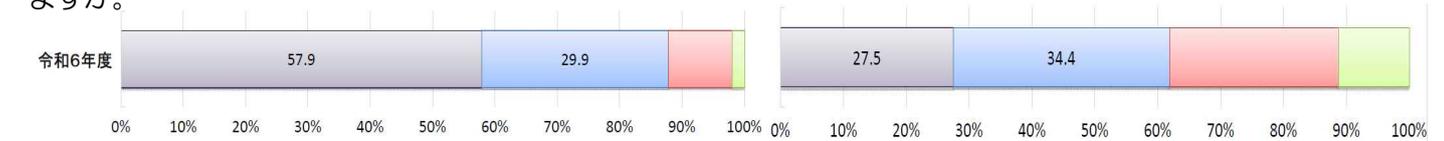
●理科の勉強は好きですか。



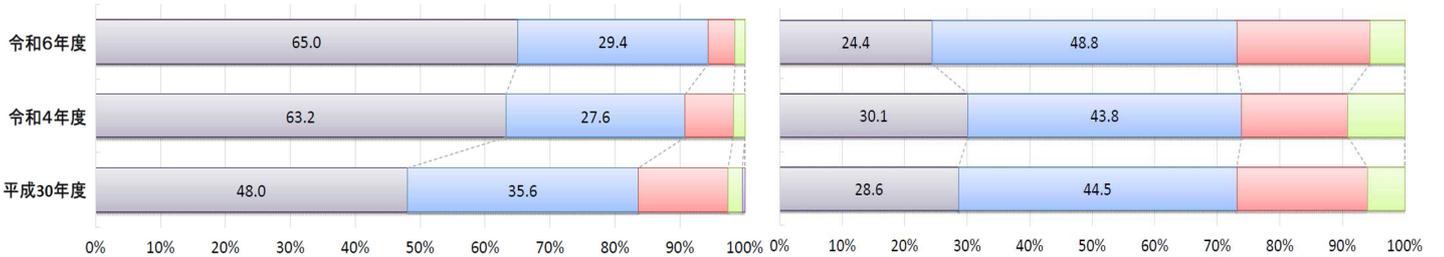
小学校

中学校

- 自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりすることがありますか。

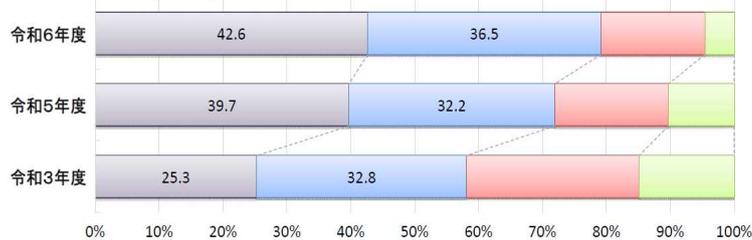


- 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか。



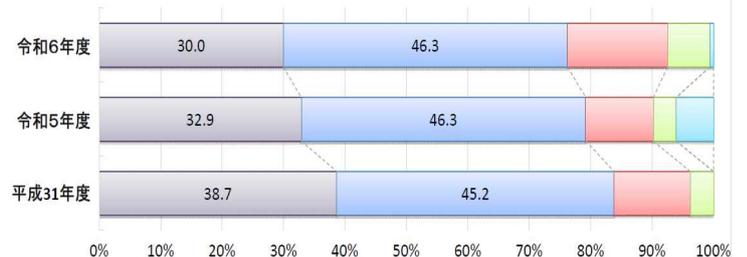
② 英語に関する状況

- 英語の勉強は好きですか。



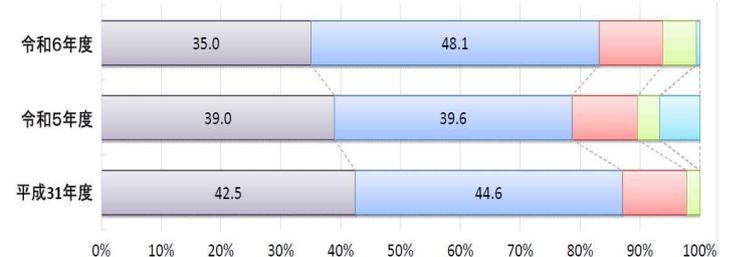
聞く

- 1、2年生のときに受けた授業では、英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか。



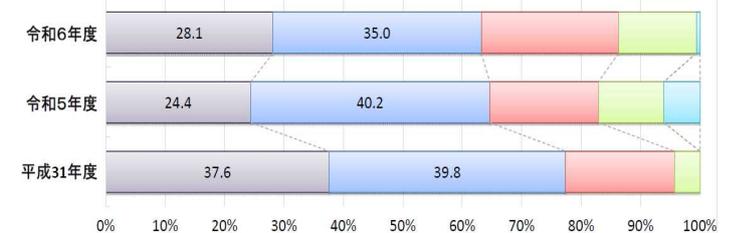
読む

- 1、2年生のときに受けた授業では、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか。



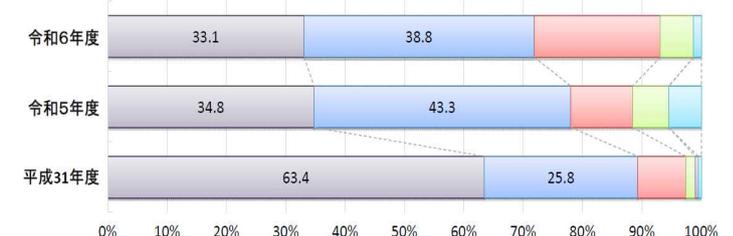
話す（やり取り）

- 1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか。



話す（発表）

- 1、2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか。



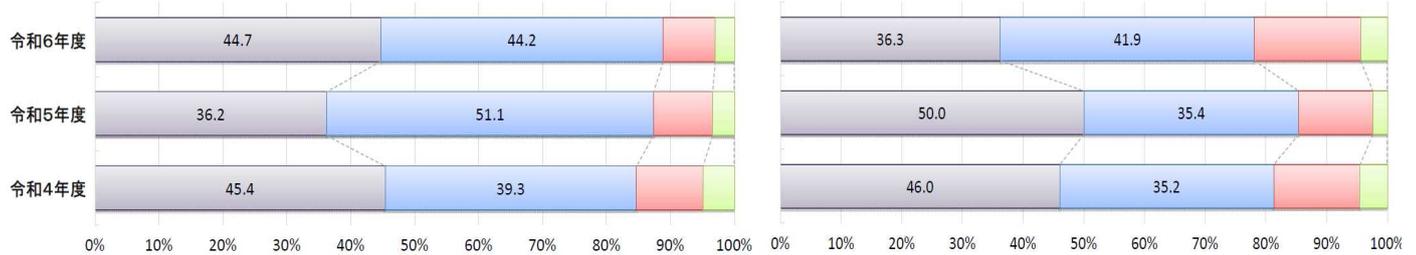
書く

- 1、2年生のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか。

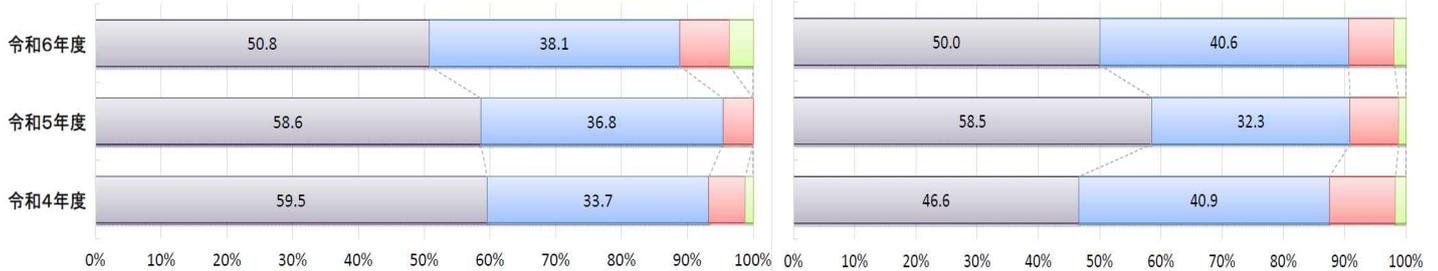


(4) 児童生徒の挑戦心・自己有用感・幸福感等に関する状況

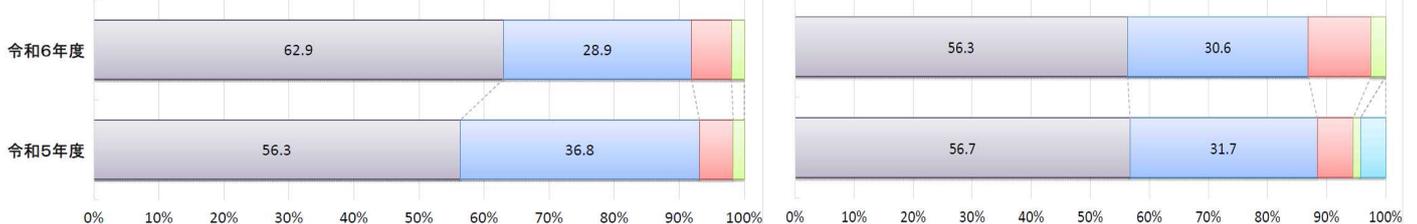
- 自分には、よいところがあると思いますか。



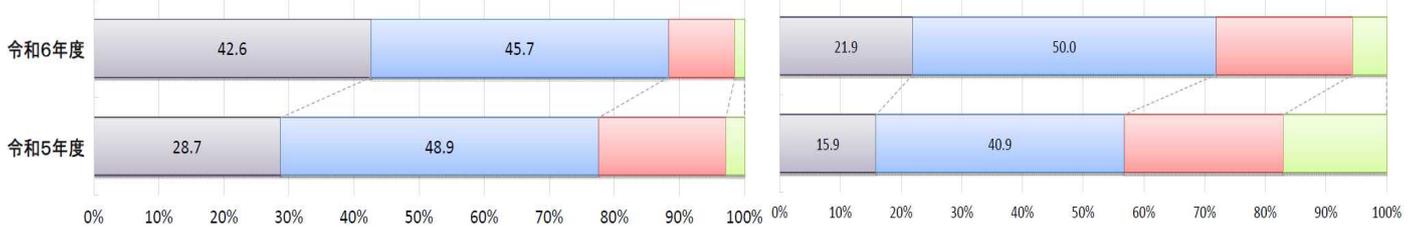
- 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。



- 友達関係に満足していますか。



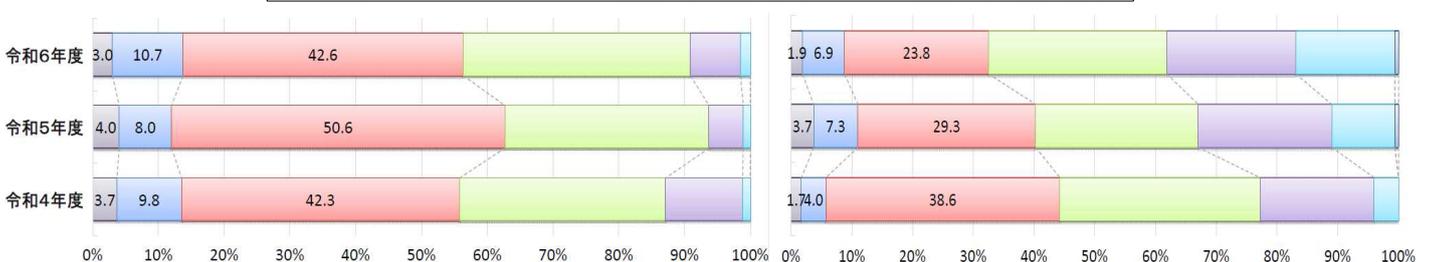
- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。



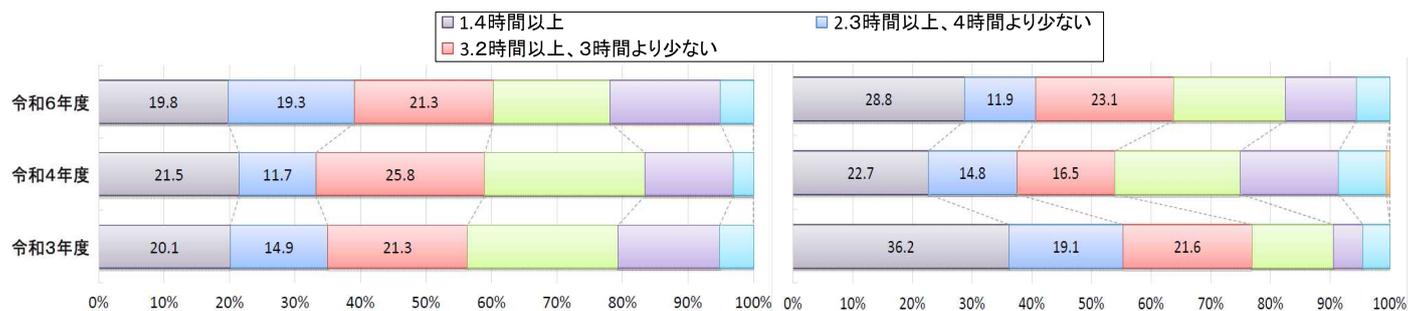
(5) 学校外での過ごし方（勉強時間、テレビゲーム等の時間）

- 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。

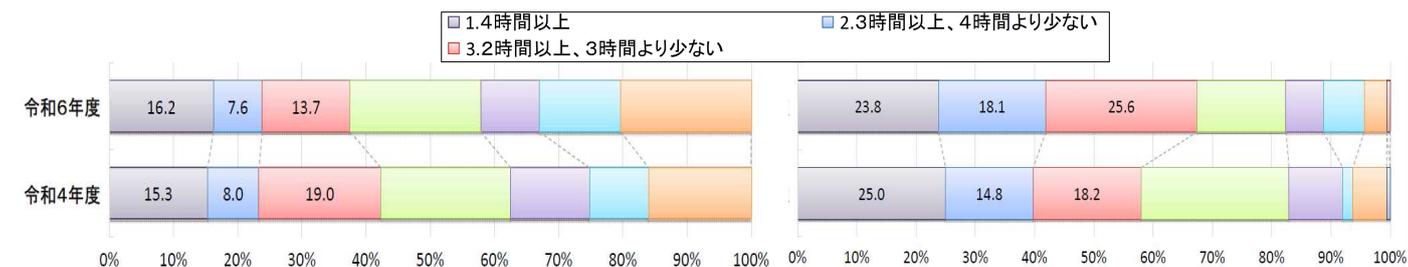
□ 1.3時間以上 □ 2.2時間以上、3時間より少ない □ 3.1時間以上、2時間より少ない



- 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。



- 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）。



4 各学校の取組に係る学校の評価

（4できている 3だいたいできている 2あまりできていない 1できていない）

学校司書、図書担当を中心に組織的な読書活動の充実	4.0
学級経営の充実に努め、児童生徒がお互いに認め、励ます支持的風土の醸成	3.8
情報モラルについて、学校・家庭・地域が連携し、参観日、学校運営協議会、学校だよりを通じて共通理解を図り、情報モラルを確立する	3.7
プログラミング教育の計画及び指導の見直しと、その充実	3.4
一貫した学習規律の確立	3.4
やる気をもって、難しいことにも挑戦する学習集団の育成に資する学級経営・学年経営の充実	3.3
家庭と連携した家庭学習の取組	3.3
学びなおしの機会の確保	3.3
次の学習につながる書く活動を各教科の年間指導計画に位置付ける	3.1
児童生徒に「学ぶ」意義について地域の協力を得ながら考えさせる	3.1
自分で計画を立て意味のある家庭学習（学年＋10分）をする習慣の育成	2.7
単元等のまとまりの中で、各教科等の「見方・考え方」を働かせた学習を計画的に位置付ける	2.7
調査問題を年間指導計画に位置付け、授業の中で実施	2.7

（※名寄市で学力向上の重点項目について取組状況を取りまとめた調査結果）

5 学力向上の取組について

今年度の全国学力・学習状況調査の結果から、教科に関する調査では、小学校においては、2教科とも全国平均正答率とほぼ同等であり、各教科で学力の定着が図られている状況が見られます。また、中学校においては、2教科とも全国平均正答率より低く、課題が見られます。

特に、中学校では記述式、思考・判断・表現について低く、目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、自分の考えが伝わる文章になるように工夫したりすることに課題が見られます。また、小学校では、自分の考えを伝えるための書き表し方の工夫に課題が見られます。

質問紙調査では、家庭での学習時間が短いこと、テレビゲームや携帯電話・スマートフォンを使用する時間が長いことなどが喫緊の課題となっています。

このような成果と課題を踏まえ、各寄市教育委員会では、授業改善や学級集団の充実を図ることと、家庭において情報モラルを含む望ましい生活習慣や学習習慣を定着させることを「車の両輪」と位置付け、各寄市教育改善プロジェクト委員会を中心として、市内の学校が一体となって、以下の学力向上の取組をさらに推進してまいります。

【主な重点】

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">(1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善(2) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を支える指導方法の改善(3) 学習規律、望ましい生活習慣、学習習慣の確立(4) 情報モラルの育成(5) 互いに学び合う学習集団(6) 特別な配慮を必要とする児童生徒への指導の工夫 |
|--|

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

国語科を要とする全ての教科等において、記録、要約、説明、論述、話し合い等の「言語活動」を重視し、言語に対する関心や理解を深め、発表や討議、ノート記述、レポート作成などの言語活動を次の視点から継続して充実を図ります。

- 授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を示す
- 授業の最後に学習したことを振り返る活動を行う
- 全教科で目的や条件に応じて書いたり話したりする指導の充実に努める
- AIドリルなどICTを活用したり、児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような指導に努める
- 児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進める
- 授業において既習事項の確認を行う時間を確保するために、カリキュラムや指導体制の見直しを図ったり、ICTを活用したりするなど、学び直しの機会の確保に努める

(2) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を支える指導方法の改善

授業づくりに当たっては、ICTをツールとして活用しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導方法の改善を進めます。

- ① 全ての児童生徒が目標を達成することができるよう、一人一人に応じた効果的な方法で学習を進めるなど、多様な方法で目標達成を目指す指導の個別化
- ② 探究的な学習の過程等において、児童生徒自身が最適な学習に向けて調整することができるよう、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供するなど、自らに最適な学びとする学習の個性化
- ③ 異なる考え方を組み合わせ、よりよい学びを生み出していくことができるよう、資質・能力の育成を目指した対話や協働等により、知識やアイディアを共有するなど、最適解や納得解を求める協働的な学び

(3) 学習規律、望ましい生活習慣、学習習慣の確立

児童生徒が夢や目標を実現し、将来自立して生きていくためには、児童生徒が望ましい生活習慣や学習習慣を身に付けることが大切です。学校や家庭で子どもと話し合い、優先順位などを主体的に考えさせながら、学習や運動、読書の時間などの目安を設定します。

児童生徒の自ら学ぶ態度を養うため、全ての学校で学習規律の確立を図るとともに、児童生徒が自分で計画を立てて、学年×10分(中学1年生を7年生、中学2年生を8年生、中学3年生を9年生とする。)を目安とした家庭学習の時間を確保する取組の充実を図ります。

(4) 情報モラルの育成

児童生徒が自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつとともに、犯罪被害を含む危機を回避し、情報を正しく安全に利用できるようにするため、全教育活動をとおして、計画的に情報モラルを確実に身に付けさせるための指導の充実に努めます。

学校と家庭・地域が連携し、児童生徒が携帯電話・スマートフォンやテレビゲーム等の使い方について家の人と約束を決めることや、使用状況について必要に応じて家庭と話し合う機会をつくることなどの啓発に努めます。

(5) 互いに学び合う学習集団

児童生徒一人一人に対する理解の深化を図った上で、安全・安心な学校、学級の風土を創り出すこと、児童生徒一人一人が自己存在感を感じられるようにすること、教職員と児童生徒の信頼関係や児童生徒相互の人間関係づくりを進めること、児童生徒の自己選択や自己決定を促すことなど、生徒指導の実践上の視点から学習指導の充実に回り魅力ある学級経営の充実に努めます。

(6) 特別な配慮を必要とする児童生徒への指導の工夫

特別な支援を必要とする児童生徒について、学校生活のどのような場面でどのような行動が見られるのか、「障がい」として理解するのではなく、日常の行動観察により、個々の児童生徒の「特性」として理解し、対応を工夫するとともに、児童生徒ができるようになったこと、得意なことや好きなことに目を向けるなど多面的・総合的に理解します。

「個に応じた指導」の観点から、個々の児童生徒の障がいの状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うため、一人一人の実態を把握し、卒業するまでにどのような資質・能力の育成を目指すのか、個別の指導計画において、指導目標を明確にします。